

緑のセンターだより

No.210

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター(相談所)

〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel 0166-65-5553 Fax 0166-65-5626

旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>

発行:令和6年10月1日

講習会のご案内

(講習会の受付は前月の20日から、20日が休館日の場合は、翌日の21日から)

講習会の案内は、広報旭川市民「あさひぼし」に掲載します

「庭木の冬囲いと縄の縛り方の基礎」

とき 令和6年10月5日(土) 午後1時30分～3時30分 定員15名

講師 緑のセンター所長ほか

「越冬できる多肉植物と室内で育てる多肉植物の寄せ植えにチャレンジ(2鉢作ってみよう!)」

とき 令和6年10月6日(日) 午後1時30分～3時30分 定員15名 参加費3,000円

講師 緑のセンター相談員

※10月5日(土)、6日(日)の講座参加希望の方は、緑のセンター(65-5553)へ、お問い合わせください

「ブドウや小果樹の栽培管理講座」

とき 令和6年10月24日(木) 午後1時30分～3時30分 定員30名 参加費 無料

講師 上川農業改良普及センター 専門普及指導員 渡邊 智昭さん

※講座の受付は、10月20日(日) 午前9時～

「森の香り与人への効果」

とき 令和6年11月3日(日) 午後1時00分～3時00分 定員20名 参加費 無料

講師 森ん歩の会 中村 正雄さん

※講座の受付は、10月20日(日) 午前9時～

「神楽岡公園の樹木、実を利用したリース作り」～子ども編～

とき 令和6年11月9日(土) 午前10時00分～12時00分 定員10組 参加費1,000円

講師 緑のセンター相談員

※講座の受付は、10月20日(日) 午前9時～

「ドライフラワーでハーバリウム制作」

とき 令和6年11月23日(土) 午前10時30分～12時00分 定員15名

講師 旭川農業高等学校生徒 参加費1,000円(ドライフラワーなどの材料費)

※講座の受付は、10月20日(日) 午前9時～

「コキアでほうきを作ろう」

とき 令和6年12月1日(日) 午後1時00分～3時00分 定員10名 参加費800円

講師 緑のセンター職員(フラワーマスター)

※講座の受付は、11月20日(水) 午前9時～

展示会

「木の実・草の実写真展」10月1日(火)～10月31日(木) 作品提供:神田 亘雄さん

「ときわ短歌と水石の愛好会の同時展示会」11月1日(金)～11月30日(土) 作品提供:ときわ短歌、水石の愛好会

【休館日のお知らせ】

4月～10月は、第2・4月曜日が休館日です。(祝日の場合は翌日)



10月の園芸作業

1、鉢花・草花・球根類

- **シュウメイギク**は秋の風情を感じさせる優雅な花です。理想的な植え場所は株元が日蔭で葉には光が当たるようなところです。植え付けて根付いてしまえばほとんど手がかかりません。
- **コスモス**は播種後3か月後に花が咲きます。短日植物で夜間光が当たる場所では花が咲かない場合があります。
- **秋植え球根(チューリップ、スイセン、ヒヤシンス、クロッカス、球根アイリス等)**は夏の休眠の間に球根の中で花芽を作ります。休眠から覚めるためには冬の寒さが必要となります。植付け適期は10月上～中旬です。植付け深さは球根の高さの3倍程度、間隔は球根の直径の4倍程度が目安です。

2 庭木・果樹類

- **ポタン**の葉切りは、芽を充実させるために行います。葉が黄色に変わってくる9月下旬～10月下旬頃に葉柄を残し、葉をすべて切り落とします。その後切り戻し剪定や枝透かし剪定を行いましょ。
- 樹木を枯らす**カミキリムシ**の発生に注意しましょう。特に幼虫駆除が大切で、樹木にオガクズ状の排せつ物や穴を見つけたらスプレー式の殺虫剤で防除しましょう。

3 観葉植物類

- 戸外の鉢植えは寒さに弱い種類から順次室内に取り込みます。一緒に病気やオンシツコナジラミなどの害虫を持ち込まないように、事前の病害虫の防除をしておきます。

4 多肉植物・サボテン類

- **シャコバサボテン**は短日処理を行いクリスマス頃に開花させましょう。
- サボテン類は下旬ころから水やりや肥料は中止し、休眠させましょう。



11月の園芸作業

1 鉢花・草花・球根類

- **カンシラン**は8～10℃の低温に約60日間合わせると花が順調に咲くようになります。霜が降りる直前まで屋外で管理するとよいでしょう。
- **アマリリス**は葉が枯れてから室内に入れ凍結しない場所で管理しましょう。
- **キク**は花が咲き終わったら株元から3～5cmくらい残して茎を切り戻し、そのまま冬越しさせます。病気の発生を抑え、新たな冬至芽が出やすくなります。
- **アザレア**は温かい室内では花がうまく咲かないので、暖房のない部屋でゆっくりと育てます。

2 庭木・果樹類

- **フジ**は来年の花芽が出来上がっています。今年伸びた枝元(つる)の3～4節を残して剪定して越冬に備えましょう。
- **フドウ**は春の剪定ができません。落葉後、枝が褐色になる11月中旬から下旬に剪定します。枝は柵から降ろして越冬に備えましょう。
- 油粕などの有機質肥料は中旬頃に施します。
- 雪害防止の冬囲いをします。

3 観葉植物類

- 朝の最低気温が15℃以上の時は水や肥料を与えることができますが、10℃以下になる場合には水は鉢土の表面が乾いてから2～3日後に与え、肥料は与えるのを中止します。

4 多肉植物・サボテン類

- サボテン類は冬に向かって休眠していく時期です。水やりは間隔を2週間に一度程度に空けていきます。肥料は与えません。
- **アロエ**や**コフィツム**など生育している株には、鉢土が乾いたら水やりし、液体肥料を月1回程度施します。

〈我が家の庭づくり〉 秋編 宿根草の刈り込み

《10月にない宿根草の茎葉が色づき、痛み始めるこれから根雪までが刈り込みのチャンス！》

* 刈り込みを行う理由

① 病害予防

庭に残る枯れたり傷んだ茎葉は、冬の間には病原菌や害虫の住み家となり病虫害の原因になります。降雪前に刈り取って庭の外に持ち出しましょう。

② 来春の芽出し時の障害を取り除いておく

来年(来春)新芽や新葉をきれいに鑑賞するため、刈り取り後すぐに取り去っておくと良いでしょう(雪解け後すぐに芽出し・開花する物は特に重要な作業)。

* 刈り込みをしない種類

宿根草には冬の間も地上部に葉を残し、越冬する種類があります。それらは茶色く枯れた部分のみ取り去れば刈込む必要はありません。(例:ヒューケラ・ヒマラヤユキノシタ・クリスマスローズ・ラムズイヤー・アジュガ・キリンソウなど)

* 刈り込みの方法

地際から5~10cmのところを刈り込みます。剪定鋏や植木鋏もしくは刈り込み鋏で少しずつ刈り込んでいきましょう。エンジン式の刈り払い機やバリカンなどを使うことも可能です(幼木等の残したい物には目印を付けておきます)。

・刈り込んだ茎葉類は居住地のごみ処分方法に応じて処分しましょう。

・生ごみコンポストがあればそれを利用し、庭に空きスペースがあればそこに堆積して時々切り返しをして、草堆肥を作ることをお勧めします。



刈込鋏を使って刈り取り



ブッシュカッターで刈り取り



草堆肥を作成中

昨年大発生した……「トドネノオオワタムシ(雪虫)」

トドネノオオワタムシは、ヤチダモなどの「モクセイ科」などの樹木の幹の隙間などで卵の状態越冬し春先(4月~5月)に孵化します。新芽や葉の裏側に寄生します(第一世代)。その後、第二世代は全て翅をもった成虫になり6~7月にトドマツに移動します。この時点では白い綿毛はありません。夏の間はトドマツの根の周囲で寄生して数世代を過ごしたのち、9月頃に翅の生えた個体(全て雌)が生まれ、産卵のため10月下旬から11月頃にまたモクセイ科の樹木に移動します。(空中を漂う姿が見られる、まるで雪が舞っているように見えることから、雪虫の愛称で知られている)体長は最大で4mm程度です。雪虫の大量発生メカニズムは「夏の高温」が挙げられます。昨年の高温で産卵数も多いと考えられ今年も多くなりそうです。対処方法としては、①口や鼻に入らないように「マスクや帽子」など対策して移動します。②「防虫スプレーや防虫タブレット」のような忌避剤を散布します。



トドネノオオワタムシ



昨年の札幌市の状況



車に付いたトドネノオオワタムシ



アイスチューリップを楽しむ

「アイスチューリップ」とは、チューリップの特別な品種を意味する言葉ではありません。花業界では古くから① チューリップの球根を 10～11 月に鉢に植え、② 定植後一か月間、戸外で普通に管理した後、③ この鉢を -2°C で冷蔵貯蔵しておき、④ 咲かせたい時期に鉢を取り出して加温し、開花時期をコントロールする事例がありましたが、このようにチューリップの球根に秋・冬・春を人為的に感じさせ、開花時期をコントロールする技術を総称して使われています。

緑のセンターでは参観者に、まだ雪深い時期にいち早い春を感じてもらうために、この技術を利用して花を咲かせ、楽しんでいただいているので紹介します。

旭川市緑のセンターのアイスチューリップ

① 10月上旬:鉢に球根をやや深めに植えて戸外で管理し、そのまま雪の下にする。② 翌年1月下旬:雪の下から鉢を掘り出して玄関で自然解凍させ、③ 15°C くらい場所に移して管理すると 25 日程度で開花する。④ 再び玄関にもどして管理すると、冬は気温が低いので花持ちが良く 1か月(自然条件下の開花は1～2週間)ほど咲き続けます。皆さんも一度チャレンジしてみてください。

チューリップには多くの種類・品種がありますが、アイスチューリップにはパーロット咲きや八重咲きの品種よりも、一般的な一重咲きのトライアンフ系や ユリ咲き種の方が良いようです。

展示室の植物 (116)

サンジャクバナナ 学名 MUSA acuminata cv. "Dwarf Cavendish" バショウ科 バショウ属



バナナは「種」が出来なくても果実がなる植物として有名です。しかし、これは突然変異の「種なしバナナ」を改良・増殖し続けた結果であって、栽培されているバナナには、生食用と料理用とで 300 種類以上もあり、種ありバナナも実在するといわれています。

また、バナナは「木」と思われがちですが、実際に木に見える部分は「仮茎」と呼ばれ、やわらかい葉が重なりあってできていることから、樹木ではなく常緑多年草であることが解ります。

緑のセンターの温室では鉢植えにして抑制管理していますが、本来の果実サイズにするためには最低でも直径 60 cm～150 cm の鉢が必要になるそうです。サンジャクバナナは開花後 80～90 日ほどで成熟しますが、個体数の管理は、親株元に出た新芽を果実収穫後に株分けして育て、次世代の維持に努めています。